

道徳学習指導案

指導者 隆杉 佳代

- 1 日 時 平成 24 年 6 月 25 日(月) 第 6 校時
- 2 学 年 第 2 学年 2 組 2 1 名 [2 年 2 組教室]
- 3 主 題 名 きまりを守る [4 - (1) 公德心・規則の尊重]
- 4 資 料 名 「かくしたボール」(出典「みんなたのしく」東京書籍)

5 主題設定の理由

○ 児童が成長することは、同時に社会や集団の様々な規範を見につけていくことでもある。まず、約束やきまりを守ることができるようにすることが必要である。その過程で公德心を養い、さらに社会での決まりの意義について考えるとともにそれを守ることが必要である。また、自他の権利を尊重し、義務を大切にす精神をしっかりと身につけるように指導する必要がある。

この段階においては、まだ自己中心性が強く、自分勝手な行動をとることが多い。このことを考慮して、身近な社会生活における出来事なども取り上げながら、約束やきまりをしっかりと守る態度を育てることが大切である。それとともに、公共物や公共の場所に意識を向けて、みんなで使うものなど、具体的な物や場所を大切にす心から公德心がはぐくまれるよう指導していくことが大切である。

○ 本学級の児童は、困っている友だちにやさしく声をかけたり、率先して手伝いをしたりするなど、よいと思ったことを進んで行うことができる。言われたことを素直に受け取る児童も多く、前向きに学校生活を送っている。しかし、学校生活の中でのきまりを守ることが大切であることはわかっているが、自分がしたいことを優先して、きまりを守らなくてもいいと思って行動していることがある。きまりを守らないと困る人がいることだけでなく、きまりを守って生活することで、自分も気持ちよく生活できることに気づかせていきたい。

○ 本資料は、クラスでボールけりがはやっている「ぼく」が上手になるために休憩時間練習をしているところから始まる。そして、ボールけりに夢中な主人公は、「ボールはきちんときめられた場所にかえしましょう。」という字が見えていたにもかかわらず、お気に入りのボールを植え込みの中に隠してしまう。昼休みになり、自分のお気に入りのボールで練習をしようと張り切ってボールをとりに行くと、6年生が植え込みの中をのぞいてボールを探している。その6年生の言葉に、主人公ははっとし、自分がしたこと気づくという話である。みんなの使うものを自分勝手に使ってしまうことは、児童にとっても、よくあることと考えられるので、主人公の気持ちに共

感できるようにしていく。

指導に当たっては、導入でがんばって練習していることを児童に発表させ、上手になりたいと思う主人公に共感させる。また、「ボールはきちんときめられたばしょにかえしましょう。」と書いてある掲示板を見てボールを隠す「ぼく」を演じることで、「ぼく」の心の葛藤を感じ取らせる。

中心発問では、6年生の言葉から、みんなのことを考えている6年生と自分のことしか考えていない主人公の「ぼく」との気持ちの違いについて考えさせ、きまりを守らなかったことで6年生だけでなく、学校みんなが困ることに気づかせる。その際、一人一人に考えを持たせるために、主人公がはっとしてからどんなことを考えたのかをワークシートに書かせる。きまりを守っていない状態と、きまりを守っている状態を想像させ、比較することできまりを守ることの大切さに気づけるようにしていく

展開後段では、身の回りにどんなきまりがあるのか話し合い、そのきまりを守っているか振り返らせる。その際、きまりを守ってよかった経験も話し合わせることで、きまりを守ろうとする意欲を高める。

終末では、きまりを守っている児童の姿を取り上げ、きまりを守ることのよさを感じた時の話を教師がする。

6 準備物

挿絵、ワークシート

7 ねらい

6年生の言葉を聞いて、「ぼく」がどのようなことを思ったのか話し合うことで、きまりの大切さを知り、きまりを守ろうとする道徳的心情を育てる。

8 本時のポイント

6年生の言動から、自分のことばかり考えていたが、きまりを守る大切さを改めて知り、きまりを守ろうという気持ちを強く持つために、はっとしてからの「ぼく」の気持ちをワークシートに書き込ませる。

9 指導過程

段階	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導 入	1 最近、がんばって練習していることについて話し合う。	○上手になりたいとがんばって練習していることはありますか。 ・ピアノ ・サッカー ・クロール	○自分の頑張りを想起させ、資料に出てくるボールけりを頑張っている主人公に共感できるようにする。

<p>2 「かくしたボール」の資料を聞いて話し合う。</p>	<p>○「ぼく」は、どんな気持ちで練習しているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く上手になりたい。 ・上手になってみんなと一緒にボールけりをしたい。 <p>○ぼくは、どんな気持ちでボールを隠したのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きめられた場所に返しましょうと書いてあったけど、一つぐらい返さなくても、大丈夫だよ。 ・きめられた場所に返さないといけないけど…。誰かに取られたら嫌だ。こっそり隠せば見つからないよ。 ・かたづけないといけないかな。でも、今日のボールは最高だから、だれにもとられたくない。 <p>○昼休みにボールを取りに行くとき、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰にも、見つかっていませんように。 ・昼休みもまたあのボールで練習するぞ。 	<p>○一生懸命な気持ちから練習していることに共感させ、その日のボールがとてもいいボールであり、そのボールで練習すると上手になるような気がしたことを押さえる。</p> <p>○「ぼく」になって、ボールを隠すことを演じさせることで、「ボールはきちんときめられたばしょにかえしましょう。」という字が見え、自分がしたいことと、きまりを守ることの心の葛藤を考えさせる。</p> <p>○また「あのいいボールが使える」としか、考えていないことを押さえる。</p>
	<p>◎「ぼく」は、はっとしてから心の中でどんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくがボールを隠したこと、6年生は気づくかな。どうしよう。 ・ぼくが、隠したボールを6年生が探してくれた。みんなボールがなくて困ってるんだ。 ・みんなのボールだから、きちんと片付けないといけなかった。6年生にも迷惑をかけてしまった。 ・ボールはみんなのものだったのに、ぼくのことしか考えていなかった。今度から、きちんと片付けよう。 	<p>○ワークシートに、はっとしてから「ぼく」の気持ちを書きこみ、きまりを守ろうという気持ちを持たせる。</p> <p>○きまりを守らないことで誰が困るのか考えさせる。</p> <p>○「ぼく」のように自分のことばかり考える人がいたらどうなるのか想像させ、きまりの大切さを考えさせる。</p>

<p>展開後段</p>	<p>3 今までの生活を振り返り話し合う。</p>	<p>○きまりを守って生活していますか。きまりを守ってよかったなど思ったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールを片付けていないと、次使う人が困るけど、片付けたらみんなが使えるからいい。 ・スリッパをそろえると気持ちがいいから、そろえてよかったと思う。 	<p>○身の回りがあるきまりを振り返らせ、自分がきまりを守っているか考えさせる。</p> <p>○きまりを守るよさを話し合わせ、何のためにきまりがあるのか考えさせる。</p>
<p>終末</p>	<p>4 教師の説話を聞く。</p>		<p>○きまりを守っている児童の姿から、きまりを守ることは大事だと思ったことを話す。</p>